



## 平成24年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ボルテージ

コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 津谷 祐司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 柴原 新吾

TEL 03-5475-8160

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年6月期第2四半期の業績(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第2四半期	3,745	30.3	321	△14.2	321	△14.0	187	△13.2
23年6月期第2四半期	2,875	33.9	374	8.2	373	8.5	215	2.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年6月期第2四半期	38.06	36.57
23年6月期第2四半期	147.76	141.68

(注)当社は、平成22年12月31日を基準日として平成23年1月1日付で1:3の株式分割を行っております。そのため、平成23年6月期第2四半期の1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当該株式分割前の数値で表示しており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合、各々49円25銭、47円23銭となります。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年6月期第2四半期	3,933	2,906	73.9
23年6月期	3,897	2,822	72.4

(参考) 自己資本 24年6月期第2四半期 2,906百万円 23年6月期 2,822百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	15.00	—	23.00	38.00
24年6月期	—	0.00	—	—	—
24年6月期(予想)	—	—	—	19.00	19.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

1. 平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は上場記念配当であります。なお、当社は、平成22年12月31日を基準日として平成23年1月1日付で、1:3の株式分割を行っております。そのため、平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は、当該株式分割前の数値で記載しております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合、平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は5円00銭となります。

2. 平成23年6月期末の1株当たり配当金は、市場変更記念配当5円00銭と普通配当18円00銭の合計であります。

### 3. 平成24年6月期の業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,050	26.8	840	9.6	839	10.2	494	11.3	99.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

上記の1株当たり当期純利益については、本決算短信の発表日現在の発行済株式総数(4,954,756株)を基に算出しております。

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年6月期2Q	4,936,373 株	23年6月期	4,910,291 株
② 期末自己株式数	24年6月期2Q	228 株	23年6月期	228 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年6月期2Q	4,926,219 株	23年6月期2Q	1,461,374 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 当社は、平成22年12月31日を基準日として、平成23年1月1日付で1:3の株式分割を行っております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
4. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州債務危機や米国景気の先行き懸念による円高で、企業収益は減少し、個人消費は横ばいで推移する等、震災混乱後の景気を持ち直し傾向は緩やかなままでした。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、端末契約において、フィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が進み、スマートフォン契約比率は、平成23年3月末の8.8%から平成24年3月末には23.1%に増加すると予測されております(注1)。キャリア公式サイト市場は、端末の変化に伴い、フィーチャーフォン向け市場は縮小していくものの、スマートフォン向け市場の急速な立上りにより、全体としては緩やかに増加するものと見込んでおります。ソーシャルアプリ市場は、成長が続き、中でも国内ソーシャルゲームの市場規模は平成23年度に2,570億円(前年度比1.8倍)、平成24年度に3,429億円(前年度比1.3倍)に拡大すると予測されております(注2)。

このような環境の下、当社は、中期的な経営戦略として、次の2点を掲げております。

①「恋ゲーム」に経営資源を集中し、コンテンツの高付加価値化に努める。

※「恋ゲーム」は、「恋人」シリーズと「恋も仕事も!」シリーズの総称です。

なお、従来の「恋人ゲーム」シリーズを「恋人」シリーズに名称変更しております。

②従来のキャリア公式サイト市場から、ソーシャルアプリ市場、スマートフォン向け市場及び海外市場へと、収益源の多様化を図る。

顧客ターゲットについては、19才から44才の女性とし、特に30才前後の女性を中核層としております。

モバイルコマース事業及びその他の事業については、主軸のモバイルコンテンツ事業とのシナジーある事業展開を図ってまいりました。

当第2四半期累計期間においては、売上は、主軸のモバイルコンテンツ事業の売上増により、増加いたしました。一方、費用は、モバイルコンテンツ事業での、ソーシャルアプリの販売手数料やテレビCMの実施による広告宣伝費の増加はありましたが、全体は概ね計画通りに推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は3,745,510千円(前年同期比30.3%増)、営業利益は321,097千円(同14.2%減)、経常利益は321,081千円(同14.0%減)、四半期純利益は187,465千円(同13.2%減)となりました。

(注) 1. 出所：株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測(11年7月)」平成23年7月7日発表

2. 出所：株式会社矢野経済研究所「ソーシャルゲーム市場に関する調査結果 2011」平成24年1月17日発表  
金額はユーザー課金ベース(広告収入含まず)

セグメント別の概況は以下の通りであります。

#### (モバイルコンテンツ事業)

モバイルコンテンツ事業においては、ソーシャルアプリ、キャリア公式サイトについて、各々フィーチャーフォン向けとスマートフォン向けに、制作・運営と集客を行っております。

当第2四半期累計期間の施策としては、「恋ゲーム」の新規コンテンツとして、ソーシャルアプリは、6タイトル(内、スマートフォン向けは4タイトル)、キャリア公式サイトは、23タイトル(内、スマートフォン向けは月額課金版18タイトル、落切課金版2タイトル)を立ち上げました。海外市場向けスマートフォンアプリは、北米市場向けに「Romance Sims」シリーズ1タイトルを立ち上げました。集客に関しては、平成23年7月～11月にテレビCM「ベツカレ」キャンペーンを実施し、計画以上の実績を上げることができました。

ソーシャルアプリは、ソーシャル要素を充実させた8月投入「王子様のプロポーズ for GREE」が月1億円超を達成し、好調に推移したことに加えて、スマートフォン向けの売上が端末の普及に伴い伸長いたしました。キャリア公式サイトは、フィーチャーフォン向け市場が縮小する中、7月投入「誓いのキスは突然に」が大ヒットを記録し、11月投入「今夜アナタと眠りたい」も好調に立ち上がりました。また、個別課金売上が会社計画を大きく上回り、スマートフォン向けも20タイトルを立ち上げることができました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末における、ソーシャルアプリ数は18タイトル(内、スマートフォン向けは5タイトル)、キャリア公式サイト数は100タイトル(内、スマートフォン向けは月額課金版19タイトル、落切課金版4タイトル)、海外市場向けスマートフォンアプリ数は北米市場向け1タイトル、当第2四半期累計期間の売上高は3,605,897千円(前年同期比32.3%

増)、セグメント利益は655,701千円(前年同期比3.4%減)となりました。

(モバイルコマース事業)

モバイルコマース事業においては、「恋人」シリーズのキャラクター等を活用した「オリジナルグッズ」の開発・販売に注力してまいりました。

当第2四半期累計期間の施策としては、「オリジナルグッズ」111アイテムを販売開始いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は135,196千円(前年同期比0.4%増)、セグメント損失は27,208千円(前年同期はセグメント損失17,803千円)となりました。

なお、当事業は、平成24年1月24日付の「モバイルコマース事業の閉鎖に関するお知らせ」で公表しました通り、平成24年3月31日を目途に閉鎖する予定です。

(その他)

その他の事業においては、パッケージ事業の収益が計上されており、主にモバイルコンテンツ事業のコンテンツに関連した、DVD・CD・書籍の販売を行っております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,416千円(前年同期比71.9%減)、セグメント利益は2,047千円(前年同期比53.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比較して36,012千円増加し、3,933,329千円となりました。その主な要因は、現金及び預金が228,436千円減少したものの、売掛金が264,748千円増加したことによるものです。

負債は前事業年度末と比較して47,294千円減少し、1,027,265千円となりました。その主な要因は、未払費用が121,831千円増加したものの、未払法人税等の減少87,572千円や1年内返済長期借入金及び長期借入金の減少44,108千円があったことによるものです。

純資産は前事業年度末と比較して83,307千円増加し、2,906,064千円となりました。その主な要因は、配当金の支払があったものの、四半期純利益の増加により利益剰余金の増加74,533千円があったことによるものです。

②キャッシュフローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して228,436千円減少し、1,782,061千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税引前四半期純利益321,075千円や未払費用の増加121,831千円があったものの、法人税等の支払212,732千円や売掛債権の増加264,748千円による資金の支出があったこと等により、3,959千円の資金を支出する結果(前年同期は10,188千円の資金を支出する結果)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、PCやサーバー等の有形固定資産の取得による支出24,112千円やモバイルコンテンツ事業のコンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出53,264千円により、77,376千円の資金を支出する結果(前年同期は52,778千円の資金を支出する結果)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出44,108千円及び配当金の支払額111,591千円があったこと等により、146,925千円の資金を支出する結果(前年同期は37,914千円の資金を支出する結果)となりました。

### (3) 業績予想に関する定性的情報

前記の中期的な経営戦略に基づき、下期においては、具体的に以下の取り組みを行います。

- ・ソーシャルアプリは、第3世代（アバター、ガチャ充実のゲーム構造）を1タイトル投入するとともに、SNSプラットフォーム拡大を推進していきます。  
スマートフォン向けは、2タイトルを新たに移行させる予定です。システム開発の面で、Web開発フレームワーク「S-VF」により、フィーチャーフォン向けとスマートフォン向けの一体化を推進し、開発期間の短縮と品質向上の両立を図っていきます。
- ・キャリア公式サイトは、30才前後女性向けを2タイトル投入する予定です。テレビCMを2月から新表現で出稿するとともに、個別課金を強化します。  
スマートフォン向けは、月額課金版は、NTTドコモ・auに続き、17タイトルをソフトバンクAndroid端末にも配信し、さらに2タイトル投入予定です。落切課金版は、アプリライブラリ「K-Vapl」により、システム開発の効率化を図っていきます。
- ・海外市場向けスマートフォンアプリは、第2弾を2月に、第3弾を当第4四半期に配信予定です。

当事業年度における通期の売上高は、主軸のモバイルコンテンツ事業の売上高が当第2四半期累計期間において会社計画を上回って推移し、今後も上記の取り組みにより、順調に推移するものと見込まれます。

なお、平成24年1月24日付の「モバイルコマース事業の閉鎖に関するお知らせ」で公表しました通り、平成24年3月31日を目途にモバイルコマース事業を閉鎖する予定です。この閉鎖による売上高の減少は、モバイルコンテンツ事業の売上高の増加により吸収する見込みです。

通期の営業利益、経常利益、当期純利益は、テレビCMの増額により、費用が期初計画比で増加するものの、売上高の増加が費用の増加を吸収する見込みです。

以上により、当事業年度の業績予想は、平成24年2月3日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」でも公表しました通り、売上高8,050百万円（前事業年度比26.8%増）、営業利益840百万円（同9.6%増）、経常利益839百万円（同10.2%増）、当期純利益494百万円（同11.3%増）を見込んでおります。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,010,498	1,782,061
売掛金	1,468,509	1,733,258
商品及び製品	27,130	23,639
前払費用	28,497	28,965
繰延税金資産	38,271	31,142
その他	402	305
貸倒引当金	△10,547	△23,275
流動資産合計	3,562,761	3,576,096
固定資産		
有形固定資産		
建物	36,995	36,995
減価償却累計額	△27,762	△30,341
建物（純額）	9,232	6,653
工具、器具及び備品	149,803	166,281
減価償却累計額	△119,945	△131,739
工具、器具及び備品（純額）	29,857	34,542
有形固定資産合計	39,090	41,195
無形固定資産		
ソフトウェア	95,456	117,575
無形固定資産合計	95,456	117,575
投資その他の資産		
繰延税金資産	24,197	25,027
敷金	175,810	173,434
投資その他の資産合計	200,008	198,461
固定資産合計	334,555	357,232
資産合計	3,897,316	3,933,329

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	95,763	82,563
1年内返済予定の長期借入金	38,106	—
未払金	14,141	1,522
未払費用	644,070	765,901
未払法人税等	220,937	133,364
その他	55,539	43,913
流動負債合計	1,068,558	1,027,265
固定負債		
長期借入金	6,002	—
固定負債合計	6,002	—
負債合計	1,074,560	1,027,265
純資産の部		
株主資本		
資本金	866,914	871,301
資本剰余金	832,514	836,901
利益剰余金	1,123,523	1,198,057
自己株式	△196	△196
株主資本合計	2,822,756	2,906,064
純資産合計	2,822,756	2,906,064
負債純資産合計	3,897,316	3,933,329



(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
売上高	2,875,577	3,745,510
売上原価	650,153	823,982
売上総利益	2,225,423	2,921,528
販売費及び一般管理費	1,851,245	2,600,430
営業利益	374,177	321,097
営業外収益		
受取利息	152	232
その他	26	53
営業外収益合計	178	286
営業外費用		
支払利息	878	53
為替差損	—	249
営業外費用合計	878	302
経常利益	373,478	321,081
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,955	—
固定資産除却損	455	5
特別損失合計	6,411	5
税引前四半期純利益	367,067	321,075
法人税、住民税及び事業税	163,784	127,311
法人税等調整額	△12,650	6,299
法人税等合計	151,133	133,610
四半期純利益	215,933	187,465

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	367,067	321,075
減価償却費	13,647	14,572
ソフトウェア償却費	17,879	25,955
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,955	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,247	12,728
固定資産除却損	455	5
受取利息及び受取配当金	△152	△232
支払利息	878	53
売上債権の増減額 (△は増加)	△416,435	△264,748
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,206	3,490
仕入債務の増減額 (△は減少)	29,174	△13,200
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△12,251	△16,440
未払費用の増減額 (△は減少)	155,234	121,831
その他	4,762	3,503
小計	156,257	208,593
利息及び配当金の受取額	152	232
利息の支払額	△878	△53
法人税等の支払額	△165,720	△212,732
営業活動によるキャッシュ・フロー	△10,188	△3,959
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△11,950	△24,112
無形固定資産の取得による支出	△40,828	△53,264
投資活動によるキャッシュ・フロー	△52,778	△77,376
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△46,318	△44,108
株式の発行による収入	8,600	8,773
自己株式の取得による支出	△196	—
配当金の支払額	—	△111,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37,914	△146,925
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△175
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△100,882	△228,436
現金及び現金同等物の期首残高	896,198	2,010,498
現金及び現金同等物の四半期末残高	795,316	1,782,061

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自平成22年7月1日 至平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	モバイル コンテンツ 事業	モバイル コマース 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,725,164	134,695	2,859,860	15,716	2,875,577	—	2,875,577
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,725,164	134,695	2,859,860	15,716	2,875,577	—	2,875,577
セグメント利益又は 損失(△)	679,019	△17,803	661,216	4,406	665,622	△291,444	374,177

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パッケージ事業を含んでおります。パッケージ事業は、モバイルコンテンツ事業で制作したコンテンツと関連したDVD・CD・書籍等を製作・販売しております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△291,444千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間（自平成23年7月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	モバイル コンテンツ 事業	モバイル コマース 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,605,897	135,196	3,741,093	4,416	3,745,510	—	3,745,510
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,605,897	135,196	3,741,093	4,416	3,745,510	—	3,745,510
セグメント利益又は 損失(△)	655,701	△27,208	628,493	2,047	630,541	△309,443	321,097

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パッケージ事業を含んでおります。パッケージ事業は、モバイルコンテンツ事業で制作したコンテンツと関連したDVD・CD・書籍等を製作・販売しております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△309,443千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。